

◆学校法人中村学園専門学校

創立30周年記念事業

教頭・教育部長 有賀 浩

昭和61年4月に静岡市駿河区南町の地に静岡電子専門学校、専門学校静岡スクールオブビジネス2校を開校して以来、平成28年度で30周年を迎えた。電子、ビジネス、組込み技術、ロボット開発、情報システム、映像・音響、医療事務分野の職業教育を行ってきた。

平成10年4月には専門学校静岡電子情報カレッジ・静岡福祉医療専門学校にリニューアルし、介護、社会福祉、子どもの分野にも進出。この30年間、多岐にわたる分野において、時代や地域、産業界のニーズに合致した数多くの優秀な人材を輩出し、貢献してきた。

斯様な歴史を振り返り、本学園の歴史に一つの里程碑を建て、また次の時代の職業教育に向けて新たな一歩を踏み出すべく、9月23日(金)～9月25日(日)、本学南町キャンパス・森下町キャンパス並びにホテルセンチュリー静岡5階センチュールームを会場に、以下の記念事業を実施した。

この平成28年度を30周年記念の年度と位置付け、今後も様々なイベントを企画・実施していく。

- ① 創立者中村忠雄先生胸像除幕式 9月23日(金)9:00～9:30
- ② パネルディスカッション「防災と減災」9月23日(金)10:00～
- ③ 産学連携教育プログラム成果発表会  
9月23日(金)13:30～15:00
- ④ 高校生ICTカンファレンス 9月25日(日)9:00～17:00
- ⑤ 地域交流イベント 9月24日(土)
- ⑥ 30周年記念文化祭・学園祭「刻む～仲間とともに」  
9月21日(水)～9月25日(日)
- ⑦ 第一ひかり幼稚園イベント 9月24日(土)10:30～11:30



- ⑧ 30周年記念講演 9月25日(日)  
15時30分～17時

講師：森 理世氏  
(ミスユニバース世界大会優勝者)  
講演テーマ

「“夢”は自分の手でつかむ」

まさに「夢実現」を果たした講師の経験談を聴講し、本学の学生達が「目指す仕事への就職」という夢を現実のものとするための意気を高揚させることができた。

- ⑨ 30周年記念式典 (17時15分～17時45分)

来賓、本学理事・役員、評議員、教職員、学生が一堂に会して本学30年間振り返るとともに、来賓からは祝いの言葉・祝電やメッセージを頂いた。30年間に亘りお世話になった会計関係、建築関係、銀行関係者への感謝状贈呈並びに永年勤続者の表彰も行った。

- ⑩ 30周年記念同窓会総会・祝賀会 (18時～20時)

第3回目となる同窓会総会を開催。平成27年度の会計及び平成28年度の予算について報告。物故者を紹介・黙祷の後、同会場に来賓、本学理事・役員、評議員、教職員、旧教職員、同窓生が一堂に会して祝賀会を挙げる。教職員と同窓生の情報交換、同窓生同士の異業種交流・人脈拡大の場としても活用いただくことができた。



「お祝いのメッセージ」

同窓会会長・第1期卒業生 青木 孝光

学校法人中村学園専門学校創立30周年、誠にありがとうございます。第1期卒業生として、また同窓会会長として喜びの念にたえません。小生が母校にお世話になって早30年。最先端技術分野でエンジニアからプロジェクトマネージャーと、社内での立場が変化した今でも、建学の精神「パイオニアの精神」、校訓「技術は力なり、我は我が道を行く」は、人生の根幹となっています。母校には変わらぬ教育理念により、技術はもちろんのこと、人格形成も含めての人材育成に大いに期待するところがあります。また、5,000名を超える同窓会も在校生、教職員の皆さまと有機的に連携、支援して参る所存です。

本学園の益々の発展と皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げます。



◆電子情報 産学連携教育プログラム成果発表会

30周年記念事業

ICT情報システム学科 2年 高橋 卓也

今回私たちは、静岡のオープンデータを利用したAndroidアプリ「しずっ子マップ」の開発と、農家向け肥料販売会社『有限会社スルガエンタープライズ』様の「Webシステム開発」の2つについて発表を行いました。この2つのプロジェクトは、「アプリ」と「Webシステム」という全く別のものではありますが、それぞれのプロジェクトを進めていく中で共通して感じたことは「ITは私達が考えているほど万能ではない」ということです。まず、「しずっ子マップ」については、使用できるオープンデータの少なさで大きな制限を受け、「Webシステム開発」については、スルガエンタープライズ様の顧客領域にそもそもWebが向いていない、ということ非常に苦戦しました。

私達が感じたような「ITで実現できることの想像と現実のギャップ」は、誰しもが持っているものだと思うので、そのギャップを顧客にきちんと説明し、明らかにできるIT技術者を目指したいです。



**ICT映像・音響デザイン学科 2年 村林 萌花**

私は2つの産学連携プロジェクトに関わらせていただきました。1つはFM島田さんのラジオ番組制作。もう1つはスルガエンタープライズさんのホームページ制作です。

ラジオ番組制作は1年生を中心行っていたので、私は録音など技術面でサポートをしました。授業とは違い「話し手」がいることで、セッティングに時間がかかり、録音が雑になることがありましたが、実践に近い経験ができたと感じました。

もう1つのホームページ制作では、今までと違って、「自分が作りたいもの」を作るのではなく、「クライアントの要望に沿ったもの」を作らなければなりません。それは去年までの制作と違って、更に今まで先輩方が作ってきた信頼もあったのでプレッシャーを感じてしまいました。

どちらのプロジェクトでも、一緒にやっている人に迷惑をかけてしまったことが多かったですが、自分に足りないもの多く見つかったので、社会人になる来年までに少しでも直していきたいと思えます。

**◆地域連携イベントに参加して 30周年記念事業**

**総合福祉学科 3年 小澤 伎**

9月23日に「30周年記念事業」の一環として「防災と減災一被災支援活動に学ぶ」と題するパネルディスカッションを行いました。コーディネーターとして学校の講師を長年して頂いている外山知徳先生を始め、ボランティア協会、事務局長の鳥羽茂様、駿河区地域福祉推進センター、センター長の小幡剛弘様などがパネラーとして参加して頂きました。また、東日本大震災にボランティアに行かれた二人の卒業生がその時の体験やその後の人生観・職業観に与えたもののお話を頂きました。

今回このような討論会は初めてでとても良い勉強になりました。とりわけ卒業生の方々の実体験談には考えさせられることが多く、地震への意識が変わりました。

これから定期的にこのようなイベントを行うことで地域との関わりを増やし地域に開かれた学校として交流を深めていきたいです。また、学内の学科同士で自分たちがやってきたことを共有して、学科の交流も増やしていきたいと思っています。

このような有意義なイベントを開催して頂き、誠にありがとうございました。



**◆我道祭を終えて 30周年記念事業**

**学生会会長 介護福祉学科2年 村松 真実**

今回の我道祭は、「刻む～仲間とともに～」をテーマに行われました。準備期間も短い中、学校内の装飾や各クラスのイベントなど、学生会・文化祭実行委員を中心に学生みんなが協力し、仲間とともに素敵な我道祭を創り上げることができたと思います。

また、30周年ということで、記念講演・記念式典も行われました。ミスユニバース世界大会で優勝した森理世さんのお話では、夢を自分で掴むためにチャンスを見逃さないことや、何事にもチャレンジする事が大切だと学びました。なりたい自分になるために生かしていきたいです。

記念式典では、中村学園がたくさんの方に支えられて30年を刻んできたことを知り、感動しました。

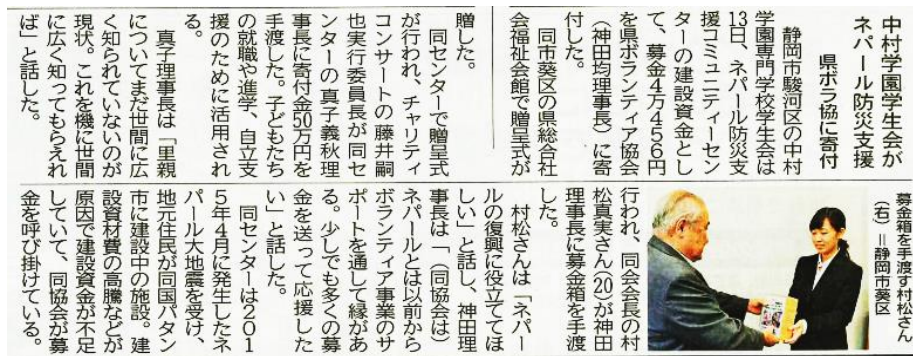
学生会会長としては、たくさんの人に迷惑をかけてしまったと思いますが、無事に終わった今、皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。30周年記念事業我道祭を通して貴重な体験ができました。ありがとうございました。

**【ネパール防災支援募金】 30周年記念事業**

30周年記念文化祭・学園祭で集まった、募金（バザー売上金、同窓会参加者からの募金）を静岡県ボランティア協会に寄付しました。

昨年4月に起こったネパール大地震を受けて、ネパール国内に防災支援コミュニティセンター建設の資金として利用していただきます。ネパール復興に少しでもお役に立てれば嬉しいです。

この様子が翌日の静岡新聞朝刊に記事として取り上げられました。



**◆保育実習を終えて**

**子ども心理学科 2年 深澤 広夢**

約2週間、施設での保育実習をさせて頂きました。初めは不安や緊張感が強く、利用者様とどう関わっていいのかわからず、分からない事すら分かりませんでした。ですが、施設の職員の方達が分からない事を聞いて下さり、質問にも丁寧に答えて頂いた為、専門的ケアを教えて頂く事もでき、私も専門的ケアをやらせて頂く機会もありました。とても貴重な体験で勉強になりました。利用者様も実習生の私を職員の方の様に接してくれて、少しずつ緊張もほぐれていき、私も利用者様に積極的に関わることが出来ました。

特に印象に残った事は、利用者様とオセロゲームをしたことです。負けそうになると勝負を諦めてボードをひっくり返してしまうので、どう接したら良いか考えました。利用者様の気持ちやどう楽しんでもらうかを考え、わざと負けるのではなく、真剣に勝負をしたら楽しんでもらえました。今回の実習で見えてきた課題と向き合い、今後の学習につなげていきたいです。

**◆消防署救急講習・庁舎見学を終えて**

**医療情報秘書科 2年 石原 沙也加**

先日の消防署救急講習を受けて、119番をかけた際どのような内容を消防署の方に伝えればいいのか、また、「SSR」特別高度救助隊の役割を教えてくださいました。

メディックファーストエイドの時にAEDの事を学びましたが、今回の講習でAEDを使った時、スムーズに使うことができませんでした。心肺停止になる人が身近にいないわけではない為、急に人が倒れた時、役に立ちたいと思いました。

もし、公の場でこのような場面に遭遇した場合には、学んだ事を活かし、人の命を救うという大事な役割を果たしていきたいです。講習にもありましたが、医療技術も進歩し救命率も高まっている今が大事だと思いました。今回学んだ私たちは、傍観者や野次馬にならず、自らが救命する立場でなくても、協力できる立場の人間になりたいと思いました。

目の前を歩いていた人が倒れたとき自分はすぐに行動できるか考えたとき、私の答えは「できない」でした。今回の講習で。誰かが行動しないと人は助からないと学ぶことができました。出掛ける時、AEDがどこにあるのかを気にしながら出掛けたいと思います。一人でも多くの命を救うことができるのなら、自分から進んで行動しようと思います。